

主な取組例

(注)あくまでも現時点でのアイデア段階のもの。

“安土桃山時代の万博”大茶湯の復活「きょうと大茶湯」

【目指す姿】

日本茶の歴史のはじまりを再認識し、茶に親しむ府民が拡大するとともに、時代の天下人に引き立てられながら育まれた茶文化を世界にアピールする京都

概要

天正15（1587）年10月1日に秀吉により開かれた「大茶湯（おおちやのゆ）」を再現。誰でも参加できる茶会を開催。

- ・ 全国から茶人を招聘
- ・ 子供を対象とした茶席や多言語に対応した外国人向けの茶席を設置
- ・ 和菓子業界とのコラボによりオリジナル茶菓子を提供

実施場所 府内各地



万博後の取組

万博後も京都で開催された歴史上の茶会の復活やオリジナル茶菓子の開発・提供などを継続的に実施していく。

世界の食文化の交流をリード「和食と世界の食サミット」

【目指す姿】

ユネスコ無形文化遺産「和食」の発信と世界の食文化の交流の拠点となる京都

概要

京都と万博参加国の人々が食文化による交流を体験するサミットを開催

- ・ 世界の食文化をリードする各国の料理人による料理の競演
- ・ 万博参加国が参加する「和食と世界の食文化フォーラム」の連続開催
- ・ 日本と万博参加国の子供が、一緒にお互いの国の食文化を学ぶワークショップの開催
- ・ 府内各地で、市町村と姉妹都市等が双方の地域の食文化や素材を活用し、名物料理を開発・提供

実施場所 府内各地



万博後の取組

他の都道府県にも参加を呼びかけ、食文化による国際交流を京都からリードしていく。

文化と経済の好循環の創出

【目指す姿】

「文化と経済の融合による好循環」が創出される京都

概要

【アート市場活性化の取組の推進】

これまでのアート市場活性化の取組（アートフェア、アート作品のオンライン販売、リアル展開）に加え、大阪・関西万博に向け、オール京都による「アートフェア」の開催に向け検討

- 国内外のアート関係者による市内でのアートイベントの開催等を誘引するため、主要なアートフェア等のスケジュールや個性的な会場を掲載した冊子・ウェブページ（日英併記）を制作し、配布・発信
- 京都の強みである美術工芸を発信するため、国内外のアート関係者向けにアトリエ・工房等を訪れるビジットツアーを実施

【アート×ビジネス事業の推進】

- 芸術文化振興の拠点の一部をオフィス等として企業へ貸出しアーティスト等の芸術関係者と企業等との交流会、サロンなどを定期的で開催し、多様な人が交流する機会を創出
- ビジネスパーソン向けアート講座や、アーティスト向けビジネス講座といった、お互いのことを学ぶことができるセミナー、ワークショップの開催

【カルチャープレナーの創造活動の促進】

- カルチャープレナーの実践事例をリサーチし、実態を把握するためのラウンドテーブル・交流会等を実施する。また、分野や地域など異なる背景を持つ人々との出会いを創出するワークショップ等を実施。
- 京都の事例に加え、国内外の先進事例をリサーチする。そのうえで、コンセプトを設計し、海外も視野に入れたカルチャープレナーに関するアワード等を開催。

実施場所 京都市内



万博後の取組

大阪・関西万博終了後も、期間中各事業の成果を踏まえ、取組を推進することで、文化芸術全体の価値を高め、芸術家や文化関係者の活動基盤の充実や活発な創作活動を創出するとともに、市民生活の豊かさ、文化の継承・創造につなげていく。

過去の殿堂入り者が一堂に会する「KYOTO地球環境の殿堂・世界会議」

【目指す姿】

環境団体や大学、産業界など、多様な主体とのパートナーシップを生かし、脱炭素で持続可能な社会の実現をリードする環境先進地・京都

概要

- ・ 京都議定書誕生の地・京都において、同議定書発効20周年、パリ協定締結10周年となる2025年に、創設15年の節目となる『KYOTO地球環境の殿堂』の過去の殿堂入り者が一堂に会し、2050年カーボンニュートラル実現に向けた課題について議論する「KYOTO地球環境の殿堂・世界会議」を実施
- ・ 併せて、環境課題の解決につながる技術を持つ国内外の大企業やスタートアップの取組を発信、交流し、誘致を促す「ZET-summit」を同時開催

実施場所 京都国立国際会館 他



万博後の取組

- ・ 万博後も、環境問題に一丸となって取り組むべき行動を京都から世界に向けて発信する『KYOTO地球環境の殿堂』を国内外の企業とも連携して継続
- ・ 脱炭素関連のスタートアップ企業が集積する「ZET-valley構想」や先端技術等を活用した次世代型ゼロカーボン地域の創設に向けた取組を推進

京都発脱炭素ライフスタイル推進事業

【目指す姿】

京都の自然と共生する文化やしまつのことを礎に自分らしい持続可能な暮らしの選択で実現するカーボンニュートラルで豊かな社会

概要

将来の京都を担う若者を中心に、事業者及び学識者と共に、一人ひとりの住民が自分らしい脱炭素型のライフスタイルに転換していくための仕組みを作るチームでは、京都が培ってきたサステナブルな理念に基づき、新しいライフスタイルの実践に繋がるプロジェクトを企業と連携して創出・実証している。万博期間中に来訪者がプロジェクトに参加することで、理念や取組を国内外に発信。

(プロジェクトの取組例 ※全ての取組が実施可能かは未定)

- ・ 京都ならではの脱炭素な取組を集約し、参加することでライフスタイルの転換にもつなげるツアーコンテンツを提供（京都脱炭素ツーリズムのHUB創設プロジェクト）
- ・ 市内企業の環境配慮商品・サービスのCO2削減効果や持続可能なものづくりのストーリーを発信（環境負荷の見える化プロジェクト）
- ・ インバウンドの需要が高く、環境負荷の低い菜食対応メニューを提供する飲食店等の情報発信（菜食対応のメニューを提供する店舗の見える化プロジェクト）
- ・ ファッションロスゼロを切り口に、古着を中心に様々な物の資源循環を体験できるイベント「循環フェス」の開催（使用済衣服の回収&循環プロジェクト（RELEASE⇔CATCH））

実施場所 京都市内



万博後の取組

万博後もプロジェクトの取組を推進し、2050年CO2排出量正味ゼロの達成に向けた京都発の脱炭素ライフスタイルを、国内外に広く発信していく。

世界に伍するスタートアップ拠点となる「世界スタートアップ三都物語」

【目指す姿】

社会課題解決を目指す起業家、投資家が世界中から集まり、
社会実装につなげる「世界に伍するスタートアップ拠点」となっている京都

概要

世界からスタートアップ企業や投資家等呼び込むため、商談やピッチ、講演会やセッション等のイベントをスタートアップ・エコシステム「グローバル拠点都市」である京都・神戸・大阪連携して取組む。

- ・ 京都から呼びかけ、三都市合計で1万人規模のイベントを開催

実施場所 京都市内



万博後の取組

万博後は、3都市がより一層連携した取組を深化させていく。

グレーターけいはんな形成に向けた「けいはんな万博」

【目指す姿】

けいはんな学研都市の最先端技術や歴史・文化、グローバルネットワークを生かし「未来社会」を先導する京都

概要

- ・ 大阪・関西万博や他のサイエンスシティ等との連携を図り、幅広い取組みとするとともに、メタバース等を活用して世界にも情報を発信
- ・ アバターやロボットによる競技や空飛ぶサービスなど、ワクワク感のある未来を展示「フードテックエキスポ」や「世界賢人会議」を開催、地球規模の課題解決に取り組む。
- ・ KGAP+の成果を更に拡充し、世界から投資を呼び込むスタートアップピッチ会「けいはんなスタートアップ・ワールドコンgres」を開催
- ・ 立地機関等のオープンハウスやテックツアーを実施するとともに、周辺の歴史文化資源の活用とも合わせて、夢洲からの誘客を促進
- ・ 若手研究者やエンジニア・学生などが交流するコモンズ（共有の場）を提供し、オープンイノベーションを推進

実施場所 けいはんなエリア及び相楽東部



万博後の取組

万博の開催をきっかけとした人や投資を呼び込み、文化学術研究の国際的なハブ拠点を形成するとともに、先進的な未来都市の姿を実現する。

京都の強みを体感できるテクニカルツアー実施

【目指す姿】

- ・海外の投資家やベンチャーキャピタル、政府関係者等が、市内の大学や研究機関、スタートアップ、研究開発型の中小企業等にアクセスできる環境が整備される京都
- ・グローバルな投融資の拡大、海外企業の誘致や京都企業の海外進出が盛んな京都

概要

- ・京都は「伝統」の上に「革新」を重ね、新たな技術を生み出してきた「ものづくりのまち」・「ベンチャーの都」
- ・また、市内に36の大学を有し、世界的な研究者を多く輩出してきた「大学のまち」でもある。
- ・こうした京都の持つ強みを体感してもらい、市内企業等への投融資とグローバルなビジネス展開を拡大することが重要。
- ・そのため、関係機関との連携を図りながら、ライフ・グリーン分野をはじめとするディープテック系のスタートアップやグローバルニッチトップの中小企業、大学・研究機関等に関心がある海外の投資家や政府関係者等を対象とした国際的なPR活動を進める。
- ・その一環として、多くのビジネス関係者が訪れる万博を契機に、ビジネス関連イベントや視察（企業、大学や研究機関、インキュベーション施設等）を組み込んだテクニカルツアーを実施。

実施場所

京都市内

万博後の取組

- ・万博を契機として関係機関間の連携を深め、好事例を創出することで、万博後も継続的に海外へのPR・テクニカルツアーを実施。
- ・スタートアップを含む市内企業等への海外からの資金調達や海外企業との連携・誘致、更には、京都企業の海外進出の充実につなげていく。



伝統を未来につなげる「淀川舟運」

【目指す姿】

淀川舟運の復活を通じて、伝統文化と最先端技術の双方を活用した未来社会の移動手段を体験できる京都

概要

昭和初期頃まで、大阪～京都間の輸送手段として人々の生活に欠かせない輸送手段となっていた淀川舟運を復活させる。

- ・ 沿川地域による淀川舟運活性化協議会及びかわまちづくりネットワークへの参画
- ・ 「かわまちづくり計画」の登録
- ・ 観光コンテンツの充実（水上アクティビティ（Eボート、ナイトクルーズ）、沿川地域まち歩き、インバウンド向けツアーの造成）
- ・ 船舶航行のための航路確保（河道掘削等）、船着場の整備等

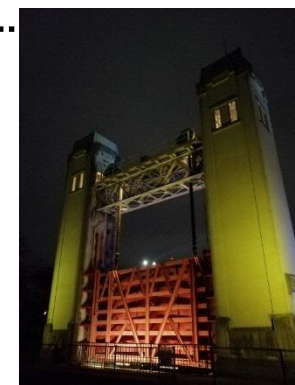
実施場所 府内各地



お花見Eボート（八幡市）



まち歩き（宇治市）



三栖閘門ライトアップ
（京都市伏見区）

万博後の取組

船着場や観光コンテンツ、沿川地域のネットワークがレガシーとして残り、関西における周遊観光の新たなコンテンツとして継続的に人を呼び込む流れを作る。

未来へつなぐ観光のカタチ

【目指す姿】

悠久の歴史の中で大切に受け継がれてきた京都の生活文化、サステナビリティの精神を体感できる、文化・観光の多彩な魅力をいかした京都ならではの特別な体験コンテンツを通して、市民の暮らしの豊かさの向上や地域・社会の課題解決、SDGs達成に貢献する持続可能な未来の京都観光を市民、観光客、観光事業者・従事者でつくりあげていく。

概要

市民、観光客、観光事業者・従事者にとっての豊かさや満足度の向上に繋がる京都観光実現のため、以下の視点を取り入れた、京都ならではの特別な観光コンテンツを造成し、京都観光が目指す姿を体感していただく。

- ・ 京都に受け継がれてきた生活文化、伝統産業、先端産業など、伝統と革新を体感する観光
- ・ 環境への配慮（カーボンニュートラル）を重視した観光
- ・ 市民と観光客が交流を楽しむ観光
- ・ 市民が京都の歴史や文化に触れ、京都の魅力を再認識できる機会の創出

コンテンツの実施に当たっては、夏・冬の閑散期対策として実施している誘客キャンペーンにおける万博記念事業をはじめ、早朝・夜間にしか体験できない朝・夜観光、多様なエリアにおける地域の魅力を生かした誘客のプロジェクト等の取組とも連携し、分散観光、宿泊観光を促進する。

実施場所 京都市内



万博後の取組

万博後も、上記の取組を継続し、持続可能な京都観光に資する取組を推進する。

「食の京都」の魅力発信

【目指す姿】

京都の選りすぐりの名店の期間限定メニューを特別価格で提供し、「ほんまもんの京都の料理」を味わってもらうことで、府市協調による食に関する取組「食の京都」を推進し、食の京都の魅力発信や京都のまちの賑わいの創出につなげる。

また、食を通じた地域経済の活性化と好循環（広域観光の推進、京都産食材の生産・流通・販売の拡大や飲食店等における消費拡大など）を図るため、関係団体と連携し、広域的な人と物の交流を促す。

概要

- ・京都レストランスペシャルの開催
京都産食材を使用した特別メニューの提供等
- ・花街等と連携した京都展（物産展）の開催

実施場所

京都市内各所（レストランスペシャル）、
国内の百貨店（京都展）

万博後の取組

万博後も、京都レストランスペシャルを開催することにより、「食の京都」の魅力発信。

